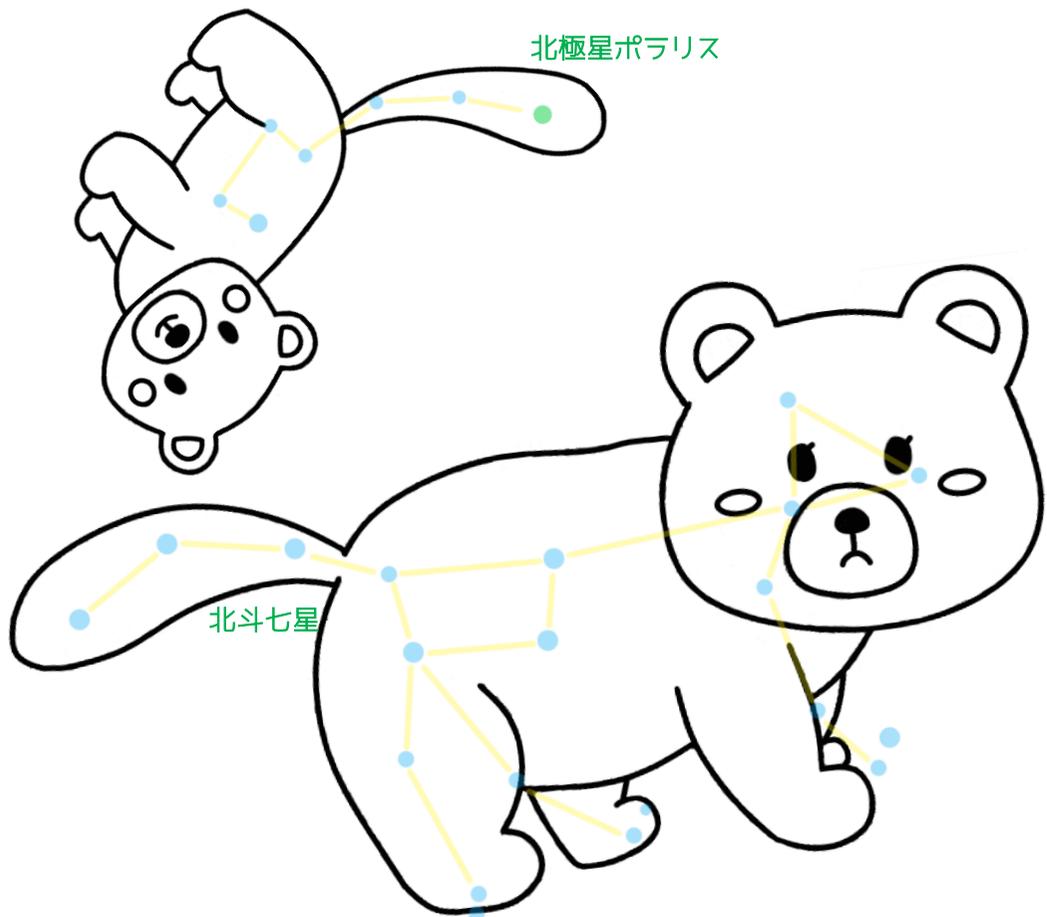


春の星座 おおぐま座・こぐま座



おおぐま座・こぐま座のおはなし (ギリシャ神話)

この神話は、カリストとその子どもアルカスという親子の物語です。

カリストは、月と狩りの女神アルテミスにつかえる美しいようせいでした。あるとき、大神ゼウスの愛をうけてしまったカリストは、みんなから好かれるとてもかわいい男の子アルカスを生みました。

しかし、このことが女神アルテミスの怒りにふれ、カリストにのろいの言葉をあびせました。すると、泣いてゆるしをこうカリストのからだはみるみるうちに大きなくまの姿に変わってしまい、アルテミスの猟犬に追われて森の奥へ逃げ込むことになりました。

悲しいことに子どものアルカスは自分の母がくまにされたことを知らないまま、やがて、りっぱな狩人に成長しました。

ある日、アルカスが森で狩りをしていると、大きなくまと出会いました。その大きなくまは、母であるカリストだったのです。カリストはなつかしさのあまり、うれしくてかけよりますが、なにも知らないアルカスは自分におそいかかったようにしか思えず、弓で射ようとしてしました。

このようすを天で見ていた大神ゼウスは大あわてでアルカスもこぐまの姿に変えると、天にほうりあげ、この親子をおおぐま座とこぐま座にしたといわれています。

くまのわりにしっぽが長いのは、ゼウスが天へあげるときしっぽをつかんで投げたため、しっぽがのびてしまったそうです。

■特徴

- おおぐま座には有名な北斗七星があるよ。
 - こぐま座には、1年中北の空でいつも同じ場所に見える2等星「北極星」があるよ。北の方角を教えてくれるとても大切な星だよ。
- ※北極星は、約26000年周期でかわるんだ。今はこぐま座のポラリスだけど、今から約12000年後はこと座のベガにかわるよ。

■見つけ方

おおぐま座の胴体としっぽの部分である北斗七星を見つけよう。北斗七星のひしゃくの先にある2つの星をむすび、2つの星の間の長さを5つ分のばしたところにある星が北極星だよ。北極星を柄の先にした小さなひしゃく形の星の並びがこぐま座なんだ。